

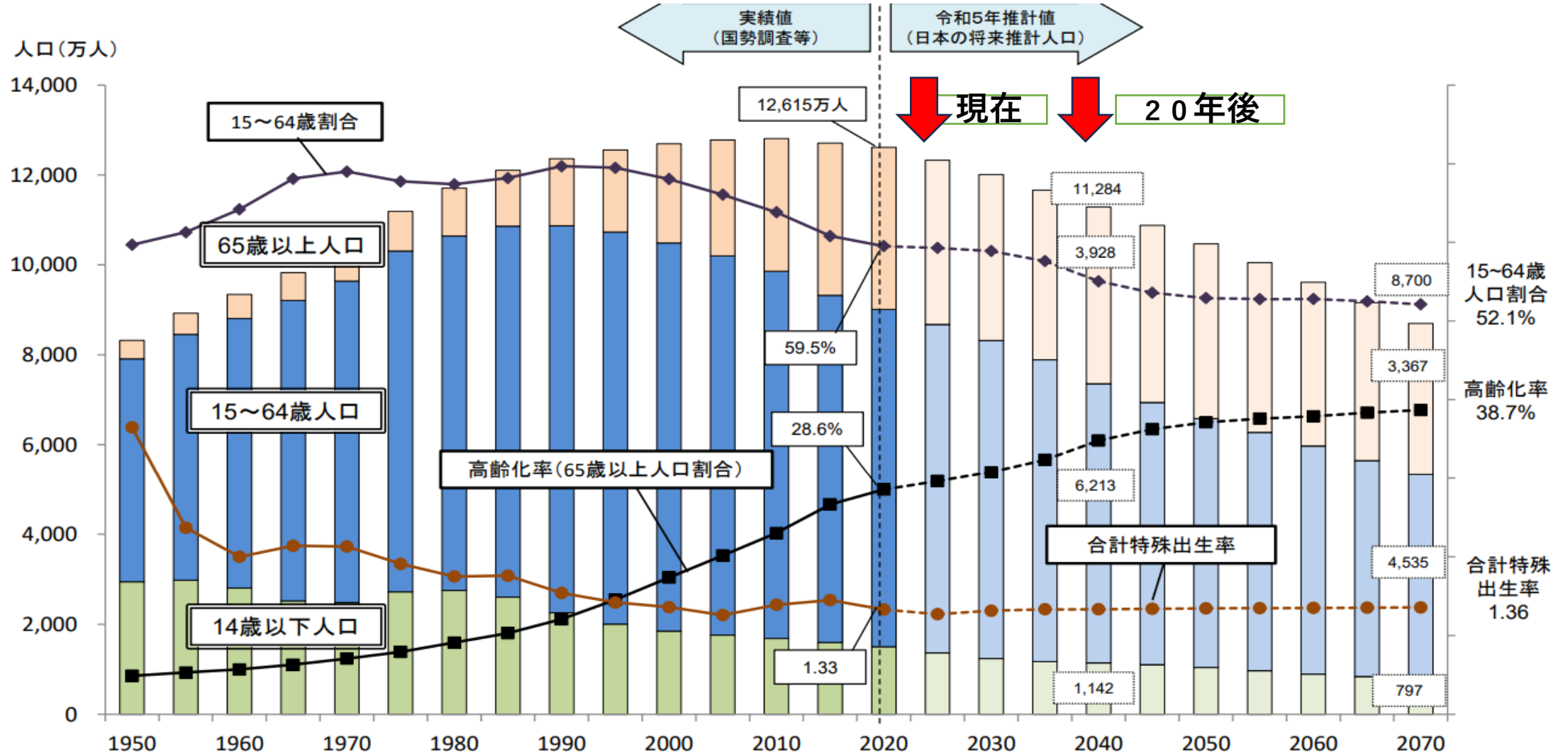
スクエアFreeセミナー（第162回）

・テーマ： **IT利用は進むか**

～ロボットが日本を救う～

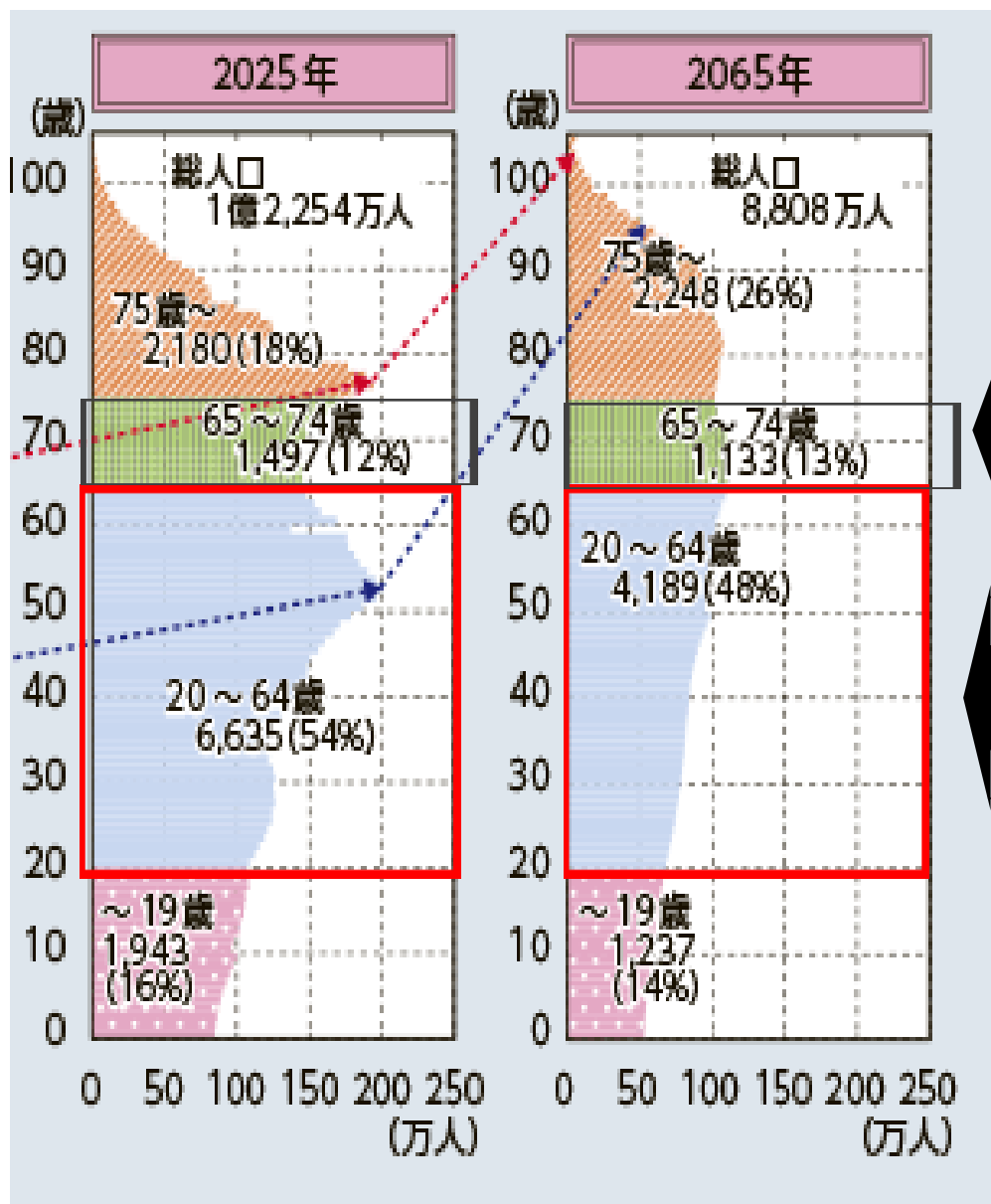
プロジェクトワン株式会社
中村 信也

人口動態統計



(出所) 2020年までの人口は総務省「国勢調査」、合計特殊出生率は厚生労働省「人口動態統計」、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)」(出生中位(死亡中位)推計)

年代別人口



・労働年齢人口の生産性が変わらなければ**総所得**は減る

→生産性向上のためのIT投資でカバーする

・農業、製造、物流、建設に人を配置できるか

働く高齢者

・販売、サービスに人を配置できるか

・育児・介護に必要な環境をどづするか

労働年齢人口

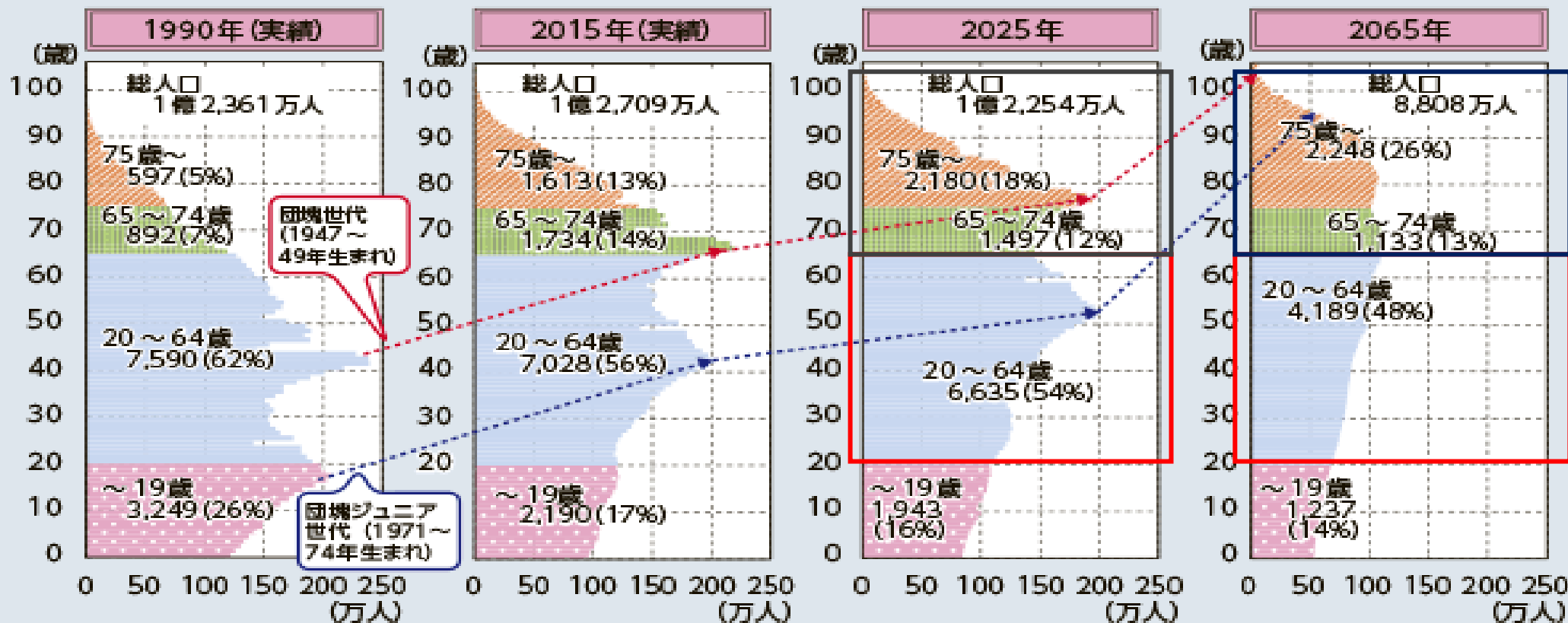
人口減を**イノベーションのチャンス**と捉え、目先の対処療法としない。

最近のニュースから

2024年10月読売新聞

- テスラは、10日のイベントで開発中の人型ロボット「オプティマス」も披露した。
- 2026年にも販売を開始し、価格は3万ドル（約450万円）以下に抑えるという。
- 頭脳労働に関してはAIで解決できそう
- 肉体労働に関してはロボットで解決できそう

図表1-1-1 人口ピラミッドの変化（1990、2015、2025、2065）－平成29年中位推計－



出所：実績値（1990年及び2015年）は総務省「国勢調査」をもとに厚生労働省作成、推計値（2025年及び2065年）は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）：出生中位・死亡中位推計」（各年10月1日現在人口）

（注）1990年及び2015年の総人口は、年齢不詳を含む。